

日ごとに長くなる昼間に気分も明るくなりますね。
今年春の訪れが早そうです。

フリスゴの嘴みたいな辛夷の芽がかなり大きくなりました。
春暖かくなつて新芽が出てくるのが当然のことと思つていますが、葉が落ち尽くし冬眠してるかに見える木々も寒風の中芽吹き準備をしているんですね。
そんな冬枯れの中、近くの野川公園ではまんさくが咲き始めました。

やと景気も上昇気分。その要因は二極化、特に高額商品がポイントの様です。
それは『安物買いの銭失い』を経験し『いいもの長く』
に目覚めた消費者の偽らざる購買動機の様です。

実りの秋に向けてカシミア受注会という差別化で頑張りますよ。

今年のカシミア受注会は三月からスタートします。
『そんなに早くから?』という声もありますが、お洒落の好きな人は注文したその日から着る時を思つてわくわくするものです。実際注文が入り始めました。

春最初の楽しみみの東京ドームで開催される『世界ラン展』に行つて見事なラン達を堪能してきました。すごい人出でしたが、寒い外から暖かいドームに入つてコートを脱いだ皆さんの四人に三人はニットでした。

商売柄どうしても服に目がいき、ランを見たりセーターを観察したり忙しい一日でした。
次の楽しみは、西武ドームの『世界バラとガーデニングショー』。

緑の自然の中や、花いっぱいの中で過ごす仕事で疲れた頭が癒され元気をもらった感じがします。

【信じてもらえなかった】

UTOの売りは『貴方の希望のサイズで・約80色からお好きな色で短期間でお作りします』というものです。しかも追加料金は布帛のお直し程度の料金です。

あるお店が、『そんなの出来るわけないよ、普通何万円もかかるし、第一一枚一枚作ってくれるはずがないよ、きっと何かある、商品が入ってくるまで判らない』と他のニットメーカーに言われて、商品が上がつてくるまで不安で実際に

エレガントなリブ衿カーデ

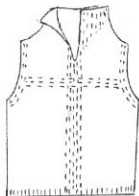
No. 1307 ¥48,000.-



肩にかかるほど大きなリブの広衿とススキリの裾リブがとってもエレガント。

3ゲージベスト

No. 1513 ¥38,000.-



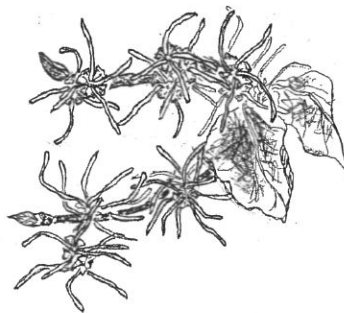
ザックリの3ゲージ。裏編みに表編みの模様で衿を演出。手編みのようなカジュアルさを楽しんでください

紐リボン半袖

No. 1249 ¥29,000.-



好評の紐リボンシリーズ大きめに開いた襟元や半袖口をキュッと結んで大人の可愛さを引き立てます。



まんさく

【南青山界隈】

青山さん宅の青山

我がUTOがある南青山六丁目。港区青山はホンダの本社がある青山一丁目から地下鉄で二駅先の青山学院手前の七丁目まででありかなり広い範囲です。

青山という地名の由来は、江戸城から見たところから付いたものでときり思っていました。

実は青山という地名は、四〇〇年前に青山播磨守忠成(ただなり)という人が徳川家康から拝領し、青山家の江戸屋敷だったので青山と呼ばれるようになったそうです。随分と広大な屋敷だと思えますが、それには逸話があるようです。

青山忠成という人は家康の家臣の中でも重要な人で、武將というより行政官として能力を発揮したようです。上総・下総二万八千石の大名になり、江戸幕府最初の関東奉行にもなった人です。その青山忠成が家康の鷹狩に随行していたとき、『馬で一周した土地を屋敷として与える』と言われて、馬が倒れるまで走らせて得たのがこの広大な領地だという逸話です。

酒席での勢いのような随分と荒っぽい話ですが、

新宿付近を拝領した内藤氏も同じ逸話だそうです。地下鉄・乃木坂の駅の脇にあの乃木大将の住居跡を公園にした乃木神社がありますが、その港区の案内板にも書いてあるのであながち嘘ではなさそうです。

この青山家は子孫達も優秀だったようで、忠成の次男・忠俊(ただとし)という人は二代目將軍の秀忠の近侍として使え、三代將軍家光の傳役になり老中まで出世しています。

末裔の宗俊(むねとし)は丹波笹山六万石を拝領し、幸成(ゆきなり)という人が郡上八幡四万八千石の大名に取り立てられているそうです。

丹波笹山藩主の青山幸成の子、幸利(ゆきとし)が梅窓院というお寺を建立し、この梅窓院が丹波笹山青山家の菩提寺になったそうですが、その梅窓院は地下鉄銀座線・外苑前駅の出たところにあります。

十年ぐらい前、懇意にしていたボトムメーカー・たち英の井本事務の葬儀で入った悲しい思い出のお寺です。春には入り口の桜がきれいだつたんですが、今ではガラス張りのCSKのビルが建つてなくなつてしまいました。

平成十四年の港区の住民台帳で、青山の住民は一万八千人。青山家では家族や家来・使用人がいたとしてもこんな広大な屋敷をどうやって使っていたんでしょうか。殆どは手付かずのままだったんでしょうね。固定資産税も無いでしょうから。

江戸時代の絵地図を見ていると大きな敷地の殆どが何とかなの守という大名の江戸藩邸・中屋敷・下屋敷。明治二年の調査によると江戸の面積で武家地の占める割合は七十パーセント。神社仏閣が二十パーセント。なんと庶民は下町の十パーセントの狭いところにひしめき合つて生活していたんです。

ひどいというかあきれるというのか。封建社会とはそういうものだったんですね。



* ニットの話 * (十一)

カシミアへのこだわり

カシミア100%というけれど

五、六年前から、大変お手軽な値段のカシミアが出回っていますね。また昨年はユニクロも大掛かりにカシミアを売り出し反響を呼んだようですね。『同じカシミアなのにどうしてそんなに値段が違うの?』と度々聞かれます。お店からも『お客様からそんな質問をされて困った』という話を聞きました。素朴な疑問だと思います。

毎日カシミアを扱っているものとしては、『全然違うのになあ』と思うんですが、専門でない人やあまり馴染みのない人は、微妙な違いは判らないかも知れません。『触った感じ』といっても微妙な感触や感覚の違いですから言葉や文章ではお伝えできないものかと思いますが、無理ありません。

的確ではないかも知れませんが、例えばこんな『お蕎麦の話』の例でお話ししましょう。

海外の大生産地から大量に仕入れた100パーセント蕎麦粉を原料に、流れ作業で大量に作り込まれた麺をあらかじめ下ゆでした蕎麦玉。『らっしゃい!』とお客様が着たら、さつと湯通しして、これまたあらかじめ用意していたお湯をかけて刻みねぎを乗せて素早くお客様に出す『立ち食い蕎麦』。安くて、忙しい仕事の合間では便利で有り難い存在ですね。

一方、熟練の名人が、厳選した産地の蕎麦の実を、石臼で粉に挽き、水にこだわって、お湯のだしを吟味し、心を込めて打つ蕎麦。添えるわさびはもちろん生。お店には季節の花が飾られ落ち着いた雰囲気に行き届いたサービス。そんな中で頂くお蕎麦は値段は張るでしょうが、絶妙な味と心尽くしがお腹も心も至福にしてくれます。

どちらも本物の蕎麦粉100パーセントですからお蕎麦には違いありませんね。同じカシミア100%でも、このお蕎麦100%の話の例ぐらいに違いがあります。



カシミアの原毛も繊維の細さ、長さ、色など等級によりピンからきりまであります。それこそ価格もピンからきりです。その原毛からどんな糸を作り上げるか、もちろんこれにも多くのノウハウがあります。『素晴らしい製品は、いい原料を使い、各々の工程の匠たちが日夜ベストを尽くして作りこんでいるんです』。

それぞれの商品にはそれぞれの目的がありその目的によってそれぞれの作り方がありますね。

より多くの人に買ってもらうために、より安くするために頑張っている会社もあります。それに向かって社員は日夜努力しています。

もし自分が安いカシミアの担当者だったらあの価格のカシミア製品を作れるか? 自信を持って『Yes!』です。

『繊維の太くて短い低い等級の原毛』を『太めの番手に紡績して』『強めに撚りをかけ』た糸を作り、『甘めに編み立て』『強めに縮絨と柔軟剤をかけた』製品を『大量に直売』する。

『のところがポイントですが、この商品は多分店頭にあるときが最高の風合いで着用したり洗濯することに劣化して、何シーズンもの着用には耐えられないかも知れませんが、でも、カシミアは他のウールに比べて抜群の柔らかさを持っていますから等級の低い原料でも糸や編地が甘くてもあんまりなじみのない方には全然判らないし、また実際にこの程度のカシミアを求めておられるのかも知れません。

しかし、こんなよそ様と比べる『ニットの話』は悲しいので、もっと前向きな『UTOはこんなこだわり』のものをづくりをしています』という楽しい自慢話をしたいと思います。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

亡き母さんへ



母さんが突然父さんの元へ逝ってしまったのが一月二十八日。東京と九州の島原と離れて暮らしていたのに無沙汰なだけに家に帰り着いて顔を見るまで何にも手につかずおろろするばかりだったけど母さんの穏やかな顔をみてどういふ訳が落ち着きました。

お取引先さんに迷惑をかけないように早々に月末の支払いを済ませ、取るものとりあえず帰ったけど島原は遠いよね。

お通夜、葬儀、お墓とお寺へ納骨、初七日。

故人を偲ぶ暇など全然ないほど忙しい葬儀の行事が一通り終わって東京に帰って日常の仕事に帰った今、ことさらに明るく振舞っています。そうしていいと母さんが現れてきて悲しみが甦るんですよ。

一月に父さんの七回忌があったばかりだからきつと寂しがりの父さんが呼んだんだよね。

『父さんが亡くなって七回忌まであなたたちにお付き合いましたし、父さんが待っているからそろそろお暇しますかね』と、相変わらず明るくあつさり母さんらしいよ。

八六歳、足が悪くて車椅子なのに、前の日は友達とカラオケに行っていたそうじゃないですか?

悲壮感が無く、あきれてしまいますよ。

父さんは、静かだが芯の強い人でとても尊敬していたけど、母さんは真反対の性格で明るくお喋りで、二人はとってもいいコンビでしたよ。

よく、自分の話に笑いついて、涙がこぼれるう、と笑った姿が目につきます。

いたづら小僧だった幼い頃は怒られてばかりだったけど、事あるごとに父さんに感謝し、『家族みんながこうやって暮らしているのは父さんのおかげだから』といつも父さんを立て、決して父さんより先に箸をとったことがない母さんの姿を見て育った家族は、愛すべき母さんと尊敬する父さんを持って幸せでした。

本当に二人は仲が良かったから、二人を手本に僕らも仲良くやっていきます。

お墓の中に一つポツンとあった父さんの遺骨に母さんをびったりくっつけて納めましたよ。

母さんを亡くした僕は悲しいけど母さんと再会ってニッコリしている父さんの顔が浮かぶとなぜかほっとします。

長えいも苦しみもあまり無く、朝起きたらほっくりと近く、僕にもその秘訣を伝授してよ。

最後に『母さん、僕を生んでくれて有難う。これからは毎年の僕の誕生日には『母さん、生んでくれて有難う』を言います。

世界のホテルを旅する (十一)

元・旅行屋のお勧め アバディ・ケニヤ

ツリートップ ホテル

今回は『木の上にあるホテル』です。

ツリートップス ホテルはケニアの首都ナイロビから車で約四時間。アバディ・ナショナルパークの中にあります。ジャングルが二百メートルのトラックぐらいいの広さにポツカリ開け、そこに直径二十メートル程の池。森と池の間に太い丸太で組んだ木の柱に人間の入るオリ(ホテル)があります。動物園と全く逆の楽しいホテルです。

車から降りてホテルまでライフルを持ったホテルの主人と従業員に前後を守られながら、一列縦隊でホテルへ。梯子の階段を全員が上がって、梯子が引き上げられ床の扉が閉められると潜水艦のような気分です。(乗ったことは無いけど)

野生の雰囲気を感じない質素な造りながら不便さを全く感じさせない質実剛健な小屋です。さすがにエリザベス女王も泊まられたホテルと感心します。

三時になると、ホテルの屋上でティタイム。イギリス人はティタイムを大事にするといいますが、こんなオリに入っても、それも素晴らしい食器でティタイムができました。時々いたづらなサルがクッキーを失敬に来てお客の喚声が上がると、ボーイ君が走って行って追い払います。



池に向いた大きなガラス窓側に椅子がずらっと並んで、背中には赤々と燃えるストロブ。ここは海拔が高いので夜はかなり冷え込むんです。皆、ストロブを背中に上着まで着込んでいます。

この椅子に座って外の動物を眺めていると何時間でも飽きません。柱の下をイボイボの一家が走り回り、バツファローがゆっくりと通り過ぎます。

夕方になってジャングルの奥から二十頭以上の象が現れました。小象も母親たちに守られながらの登場です。ホテルの窓の下に撒かれた塩を舐めるんです。餌付けというか塩付けというか? 気が変わって柱にぶつかって来たかどうか? ちよつと不安がよぎります。

自分の足の直ぐ下で塩を舐めている象の背中が揺れる様は凄まじい迫力です。皆息を呑んで見つめています。あんまり熱心に見ていると、揺れる背中が船酔い気分になります。

象達が引き上げた後は夕食。檻の中でも夕食はグラスワイン付きのフルコース。やはりここはアフリカに有っても、イギリス人のリゾートだと感慨を新たにします。翌日チエックアウトして檻の階段を降りたら、少年の頃の遊びが終わった木から降りたときのような、ちよつぱり寂しい気分が残ります。